

## 令和元年度土木学会選奨土木遺産に京都府の上津屋橋選定

### ○選奨土木遺産と木製土木構造物

木材工学委員会は、令和元年度の土木学会選奨土木遺産に京都府の上津屋橋を推薦しましたが、このたび当該橋が土木学会選奨土木遺産に選定されました。

土木学会選奨土木遺産は、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として2000年度に設立されました。毎年20件ほど選出されており、これまでにおよそ400件ほどが選定されています。しかし木材を使用した構造物は改修によりコンクリートや鋼構造物に代わることも多く、木製土木構造物が選定された事例は数件しかありませんでした。

土木分野での木材利用の拡大を目指している土木学会木材工学委員会では過去の木製土木構造物にも着目しその意義・価値を今後もアピールしていきます。

### ○上津屋橋の概要

上津屋橋は、上部工の主桁が木構造で、下部工は、木とコンクリートのハイブリッド構造の橋です。京都府南部を流れる一級河川木津川に架けられ、全長は356.5m、昭和28

(1953)年に府道橋として架設されました。それ以前には渡し舟が利用されていましたが、地元の強い要望を受け、限られた予算内で洪水時に水の流れを阻害しない構造として「流れ橋」が採用されました。

架設からこれまでの約60年間で22回流されましたが、近年は台風等による豪雨の影響により流出が増加する傾向にあります。木造橋である上津屋橋は、昔にタイムスリップした様な景観により多くの時代劇ロケが実施されるなど観光資源として活用されています。このような背景から、「流れる」構造はそのままに、周囲との景観に馴染むように配慮しながら、復旧工事を繰り返してきました。

川の水位が上がると橋板や橋桁が浮かび上がり下流に流れ出ますが、橋板や橋桁がワイヤーロープで橋脚と繋がれているため、流出した場合でも水位が下がれば橋脚の上に乗せるだけで容易に復旧可能な構造となっています。近年、流出の頻度が増加したことから、より流れにくい構造となるように工夫をして、橋面を75cm高くするとともに、木橋のイメージを損なわないように配慮しながら下部構造部材の一部をコンクリート製に変更するなどの工夫を行いました。また橋に使用する木には地元京都の北山杉を使用し、補修の場合でも部材をできるだけ再利用するなど加工が容易な木材のメリットを生かしています。

「流れ橋」は自然に逆らわずに共存していこうとする日本人の知恵が生み出したもので、時代が変わっても「流れ橋」の魅力を活かした取り組みが地域一体となって推進されています。



上津屋橋（流れ橋）の木製上部工(2018年12月3日)



上津屋橋（流れ橋）の下部工（木とコンクリートのハイブリッド）（2018年12月3日）